

議会報告 瑞風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 733-4
電兼 FAX 49-6373



3月定例会と臨時会

原発再稼働容認へ

3月定例会を2月28日から開会、令和4年度当初予算など74議案を審議、全議案とも可決し3月22日に閉会しました。

また、3月定例会後の3月30日、島根原発2号機再稼働の是非を判断する臨時会が開催され、議会は賛成多数により再稼働の容認の判断をしました。

下段へ参照

令和4年度当初予算

令和4年度一般会計の当初予算総額は3百15億3千万円と過去最大の財政規模となりました。財政規模が拡大したのは、昨年7月豪雨災害復旧とコロナ対策のための対応でやむを得ません。一方、歳入不足を補うため10億円の基金を取り崩さざるを得なかったこと等、財政の健全性にも注意しておく必要があります。

主な令和4年度当初予算

1. 災害復旧予算		単位:千円
公共土木災害	3,158,843	林地崩壊復旧 含、前年度繰越分
農林災害	3,498,103	
災害関連工事	880,629	
災害救助費ほか	36,031	
合 計	7,573,606	
2. コロナ対策予算		
ワクチン接種	162,328	含、3回目、幼児接種
経済対策	1,421,292	含、FTTH(750百万円)
合 計	1,583,620	含、前年度繰越分
3. 地方創生対策		
子育て世代住環境整備	36,640	
結婚・出産・子育て支援	218,938	
人材育成と還流促進	204,626	

当初予算の特徴として、①昨年7月豪雨災害とコロナへの2つの対策を盛り込んだ「復興元年」予算、②石飛市政になって本格的に編成された石飛カラー（※左記）、③石飛カラーが反映された地方創生対策予算といえます。

※石飛カラー＝小職からの質問に答える形で市長から示されたのが、①住宅政策などデータ分析に基づき効果的と思われる施策の取組み、②道の駅など既にある資源を活用した取組み、③小規模兼業農家への支援など周辺地域の振興を図ることとで市全域の活性化を図る取組み、です。

交流センター整備 進む

昨年から加茂総合センター敷地内で始まった加茂交流センター新築工事が完成、4月1日から新センターで業務が始まります。オープン後になりますが4月3日（日）午前9時半から午後4時半まで町民を対象に見学会、4月5日に竣工式が行われます。

新装なった加茂交流センター



左奥が加茂総合センター、右手前が新加茂交流センター

総工費4億7千2百万円余、鉄骨造平屋建て延べ面積855.13㎡、内装材には雲南市内産の材木も使われ、温かみのある仕上がりとなっています。加茂町の自主組織活動の拠点として活用が期待されます。

一方、令和4年度は大東交流センターの改修工事が始まります。当センターは災害発生時の避難場所に指定されていますが、調理施設がないため整備するものです。

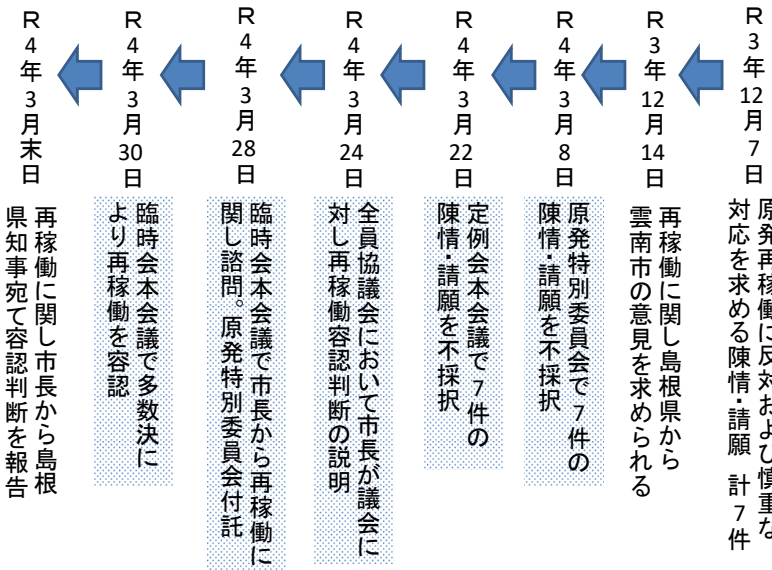
この他、雲南市実施計画（令和4～8年度）によれば今後、波多、民谷、幡屋の各交流センターの整備が順次予定されています。また、計画されていない交流センターもあり、早期の整備が待たれます。

交流センターの整備状況

交流センター名	年度	事業費(千円)	対象人口	備 考
多根交流センター	H25	140,105	409	新築
松笠交流センター	H26	145,746	343	新築
中野交流センター	H27	35,853	481	改修・移転
新市交流センター	H28	4,835	491	移転
掛合交流センター	H29	584,044	1,391	新築
春殖交流センター	H30	353,847	2,109	新築
久野交流センター	R1	155,668	492	改修・移転
加茂交流センター	R3	472,677	5,717	新築
大東交流センター	—	—	3,447	調理室整備
波多交流センター	—	—	277	改修
民谷交流センター	—	—	143	建設工事
幡屋交流センター	—	—	1,379	建設工事

原発2号機再稼働容認を巡る動き

昨年12月、県から島根原発2号機再稼働に市の考えを示すよう要請がありました。



雲南市議会の動き

3月30日の臨時会での再稼働容認判断を受け、市長は島根県知事に再稼働容認の旨を伝えることとなります。

再稼働を巡り様々なご意見を頂きました。私は安全性の確保を大前提としつつ、安定供給、経済性、脱炭素社会を展望し苦渋の容認判断をしました。雲南市環境基本条例に定める「将来的に原子力に頼らない社会の実現を目指す」方針は堅持されなければならぬと考えます。

あめつち、木次線乗り入れ

県・市町とJR西日本は「木次線観光列車運行検討会」を5回にわたり開催しました。JR西日本は、①新たな観光列車の導入はない、②令和6年から「あめつち」の週1回程度、出雲横田までの運行を表明しました。トロッコ列車が終了するのは残念ですが、やむを得ません。今後も引き続き木次線の活性化の取組みが必要です。